

せい ろう まち
せ 聖籠町
議会だより

VOL.
108
平成26年10月24日発行

魅せる女子力
(聖中祭)



平成25年度決算を認定

8～10ページ

7人が一般質問

12～19ページ

委員会報告

20・21ページ

9月定例会

平成26年第3回定例会は9月8日から24日までの17日間の会期で開かれました。

町長から行政報告があり、聖籠町企業立地促進検討委員会条例の制定、国の子ども・子育て関連三法に基づく条例制定、平成25年度決算の認定など、20議案を慎重に審議し、全て可決しました。

また、人権擁護委員の推薦も原案どおり適任と認めました。

一般質問では、7人の議員が町長の6期目の公約、町長選挙、教育、福祉など町政全般について、2日間にわたり問いただしました。

新潟東港工業地帯における遊休地の未売却地・未操業地への早期の企業立地が、町の財政状況から喫緊の課題となっています。今後の聖籠町における企業立地促進のあり方や方向性を、第三者的な立場から調査・検討を行う委員会です。



▲待たれる企業誘致

主な質疑

農業分野などの企業も視野にあるか

堀常正議員 農業関係での6次産業などを誘致する考えはあるか。町内の中小企業などの意見も聞くべきではないか。

町民から広く意見を求める

町長 基本的に委員会では町内に企業誘致を促すための優遇措置を議論してもらう。農業者に関しては優遇措置の趣旨に反している。パブリックコメントなどで町民から広く意見をもらいたい。

どう考える暫定利用地

小川益一郎議員 企業として、本来の利用をしていないのはゴルフ場ではない。アルビレックスの練習場も暫定利用地ではないか。町はどう考えているのか。

委員会の中で議論してもらう

町長 現状の利用形態をすべからず委員会に諮り議論してもらう。

どう考えている委員会の開始と答申

宮沢光子議員 町の喫緊の課題を審議するのであれば、最短で委員会の開

始はいつか。答申も早い時期に出してもらいたいのではないか。

開始は最短で11月上旬

東港振興室長 委員の公募期間を考慮して委員会開始は最短で11月上旬。諮問の一つに既存の企業誘致条例の見直しがある。議論を進めてもらい、条例の改正を3月議会に上程したい。

討論 なし
裁決 起立全員で可決

討論 なし
裁決 起立全員で可決

町の企業誘致を考える 「聖籠町企業立地促進検討委員会」

平成27年4月からスタート 「子ども・子育て支援新制度」

国の子ども・子育て関連三法に基づく条例を制定しました。

条例1 聖籠町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例

※児童福祉法の改正に伴い、家庭的保育事業等の設備、運営に関する基準を町が決め、事業者に対しての許認可も町がします。

主な質疑

保育士の資格は必要

中村恵美子議員 この

条例に該当する保育事業所などは、今、町には存在しないが、申請を受けた時には保育士の資格の有無を確認することは必要である。どう考えているか。

町が確認する

子ども教育課長

家庭的保育事業等については、町が許認可を出す。保育士の資格等についても町が確認する。この条例は施行日から5年の経過措置がされている。保育士の資格等も経過措置の中で考えることができる。

待機児童は減るのか

五十嵐利栄議員

今回の条例は全国各地で制定されていると思う。この条例を制定することで、どの程度、子育て世代が救われるのか。

主に都市部などで減ると思う

子ども教育課長

待機児童がたくさいる都市

主な質疑

残る二つの小学校区への施策は

五十嵐利栄議員 今年度、蓮野小学校区には、放課後児童クラブの施設が建設される。残る山倉小学校・亀代小学校区の放課後児童クラブの施設をどう考えているのか。

政策として3カ年計画で考える

町長 二つの小学校区においても政策として、来年度から3カ年計画で考えていきたい。

二つの事業の統合を考えるべき

子ども教育課長 蓮野小学校区の放課後児童クラブの施設は、11月末に完成予定である。

田中智之議員

小学校には、放課後児童クラブの他に放課後学習クラブがある。蓮野小学校区に建設される放課後児童クラブのオープンに合わせ、放課後学習クラブと統合する考えはないか。勤務する人たちの資格要件は満たされているか。

今後、統合を検討する

子ども教育課長

放課後児童クラブの利用対象が6年生まで拡大される。学習クラブと統合することを今後、検討する。

討論 なし
裁決 起立全員で可決



▲完成間近 蓮小放課後児童クラブ

● 第4次総合計画
・ 後期基本計画の推進

● 一貫した教育の充実

● 職員人事評価制度の導入

行政報告



渡邊町長

6期目の町政運営に臨む施政方針と基本政策、ならびに行政報告をいたします。

▼これからの任期4年間について、基本政策の第4次総合計画の実現を目指し、さらに平成28年度からスタートする後期5カ年の基本計画を策定して、目指すべき町づくりの実現に努力していきます。そのために、職員の資質向上や能力開発などの意識改革と、行政コス

トの削減や効率化を図ります。

▼こども園から小中学校の一貫した教育の充実と生涯学習計画の推進、芸術文化の振興、スポーツ振興計画の実践に努めるなど、教育環境の整備推進を図ります。また、少子高齢化に即した子育て支援や高齢者の生きがい対策、優しい介護予防の推進と介護サービス、障がい者に優しい自立支援対策など引き続き「福祉のさらなる充実・拡充」

を図ります。
▼農業では、「食糧・農業・農村基本計画」を推進し、かつ、聖籠の農業にふさわしい地域特性を生かした魅力ある「農業振興の推進」を図ります。
▼商工業の振興では、県の新潟港将来構想に基づき、物流ゾーン、エネルギー機能の強化を目指したエネルギー拠点設備の拡張、木材岸壁の大型クルーズ船の受入などの実現を目指します。

▼安定した行財政運営では、新潟東港工業団地への企業誘致を推進します。また、限られた税財源を有効的に重点配分し、経常経費などの経営コストを削減します。さらに職員の人事評価制度の導入や意識改革などの行政改革をさらに進めていきます。

聖籠こども園民営化へ 議会全員協議会

9月9日に開催された議会全員協議会で、町から議会に対して、来年4月から聖籠こども園を民営化することについて、考え方が示されました。町からの説明骨子は次の通りです。

民営化する 背景と理由

- ①町は不交付団体のため、聖籠こども園の運営費年間約1億1千万円を町が全額負担している。
- ②こども園を民営化すると、国の制度を利用できるため、町の負担が約8千万円削減できる。
- ③民営化しても保護者の負担は変わらない。
- ④一時保育のサービスは引き続き継続する。
- ⑤民営化で浮いた財源は、子育て支援に充当する。



▲来春民営化予定の聖籠こども園

⑥聖籠こども園の施設を民間に無償貸付する。
これらを実施するためには今後、条例の制定などが必要となります。
⑦委託は町内の社会福祉法人で活動している企業を対象とする。

人権擁護委員に

二宮秀男さん（蓮野）



にのみや ひてお 二宮 秀男 さん

人権擁護委員の森猛義さんが、12月31日で任期満了になることから、後任に二宮秀男さんが推薦され、全会一致で適任と認めました。

みなさんの 請願・陳情

第3回定例会では、地域の住民より直接の声となる請願1件を審査し、全会一致で採択しました。

採択した請願

◎「学費と教育条件の公私間格差是正にむけ、私立高等学校への私学助成の増額・拡充を求める意見書」の採択に関する請願
【提出者】 新潟県私学の公費助成をすすめる会 会長 中村 直美
【紹介議員】 小林 政榮・高松 守雄

自治功労者に対し 新潟県町村議会議長会より表彰

意見書を国・県に提出
第3回定例会で2件の意見書が提出され、全会一致で可決されました。可決された意見書は、国・県の関係機関に提出し、実現するよう要請しました。
◎学費と教育条件の公私間格差是正にむけ、私学助成の増額・拡充を求める意見書（国あて）
◎学費と教育条件の公私間格差是正にむけ、私学助成の増額・拡充を求める意見書（県あて）



須貝議長 五十嵐議員 桜井議員 宮沢議員

多年（10年以上）にわたり、町の地方自治の振興・発展に貢献された功績に対し、この度（平成26年6月）五十嵐利栄議員、桜井怜議員、宮沢光子議員の3議員が、新潟県町村議会議長会より表彰されました。
また、多年（5年以上）にわたり、町の議会機能の高揚ならびに地方自治の振興・発展に貢献された功績に対し、新潟県町村議会議長会から須貝龍夫議長が表彰されました。

聖籠土地改良区事務所建設の補助金を承認

一般会計補正予算

主な歳入	
■ 個人番号制度に伴うシステム改修補助金	243万円
■ 森林病虫害等防除事業補助金	1659万円
主な歳出	
■ 公有車購入費（電気自動車）	316万円
■ 聖籠土地改良区事務所建設補助金	1800万円
■ 森林（保安林等）病虫害防除対策事業委託料	3908万円

平成26年度一般会計補正予算は、既定予算に歳入歳出それぞれ1億867万円を追加し、総額70億9187万円と定める予算を全会一致で可決しました。

主な質疑は、聖籠土地改良区事務所建設補助金事業、公有車（電気自動車）購入事業、鳥獣被害防止対策事業などについて行われました。

主な質疑

率優先か額優先か

〔宮沢光子議員〕 聖籠土地改良区の補助は1800万円の金額優先か、70%の補助率が優先か。

率が優先する

〔産業観光課長〕 あくまでも70%の補助率が優先する。従って建設費が下がれば補助額も下がる。

事業別補助率の根拠は

〔五十嵐利栄議員〕 町単独の補助事業について、事業によって、補助率が異なるが、その根拠は。

規則に基づいて

〔財務財政課長〕 補助金交付規則に基づいて行っている。



▲間もなく新築予定の聖籠土地改良区事務所

なぜ無償貸付か

〔中村恵美子議員〕 聖籠土地改良区建設土地は、なぜ無償貸付か。

エコカー購入の指定寄附あり

〔総務課長〕 新発田信用金庫創立90周年記念で、エコカー購入費用として200万円の指定寄附があった。その他に次世代自動車振興センター補助金85万円も充当して、電気自動車を購入することとした。

非課税団体で今まで通り無償

〔産業観光課長〕 聖籠土地改良区は非課税団体で、今までも無償貸付しており今後も無償貸付とする。

高い電気自動車購入理由は

〔中村恵美子議員〕 今回購入予定の電気自動車は、なぜ今回だけの購入か。



▲町にも導入される電気自動車

鳥獣被害対策どう対応する

〔宮沢光子議員〕 聖籠町の猟友会22人で町の鳥獣被害対策大丈夫か。また後継者不足とも言われているが、実態はどうなっている。

鳥獣被害はカラスなど鳥対策だけのようだが、ハクビシン等の被害対策は。



▲農家の天敵 カラスの群れ

免許更新者少なくなっている

〔産業観光課長〕 22人の登録者は、ほぼ全員聖籠町在住者である。免許更新する人が減っているとも聞いている。

ハクビシンは夜行性動物のため、鉄砲では無理。わなで捕獲を考えている。

個人番号システムいつまでに

〔中村恵美子議員〕 個人番号制度に伴う統合宛名システム委託業務はいつまでに実施する計画か。

平成28年1月から使用予定

〔総務課長〕 本システムは平成27年10月までに、個人番号の割り振りを終え、平成28年1月から使用できると予定である。



▲町の受付事務風景

前年度の予算執行状況を厳しくチェック

平成25年度一般会計・4特別会計の歳入歳出決算、および下水道事業会計・水道事業会計決算の合計7議案は、議長を除く12議員で構成された決算審査特別委員会に付託され、9月17日・18日・19日・22日の4日間にわたり審査されました。委員長に桜井怜議員、副

委員長に青木順議員を選任し、町長および町執行部の出席を求め慎重に審査を行った結果、本委員会では合計21項目の意見を付けた上で全会計を認定、本会議においても委員長報告通り全会一致で認定しました。

一般会計決算

▼平成25年度決算は、歳入総額73億8834万円、前年度対比5・4%増、1億5170万円の増となった。主な内容としては法人税率の引き下げに伴い、69万円の減。歳出総額68億8538万円、前年度対比8・6%減、決算比較で6億5009万円の減。繰越明許費2億2646万円を差し引いた実質収支は2億7651万円の黒字決算となった。経常収支比率は88・4%（前年度94・5%）、公債費負担比率は4・5%（前年度4・6%）であり、財政の健全性は維持されている。主な歳入のうち町税は



▲決算委員会で真剣審査

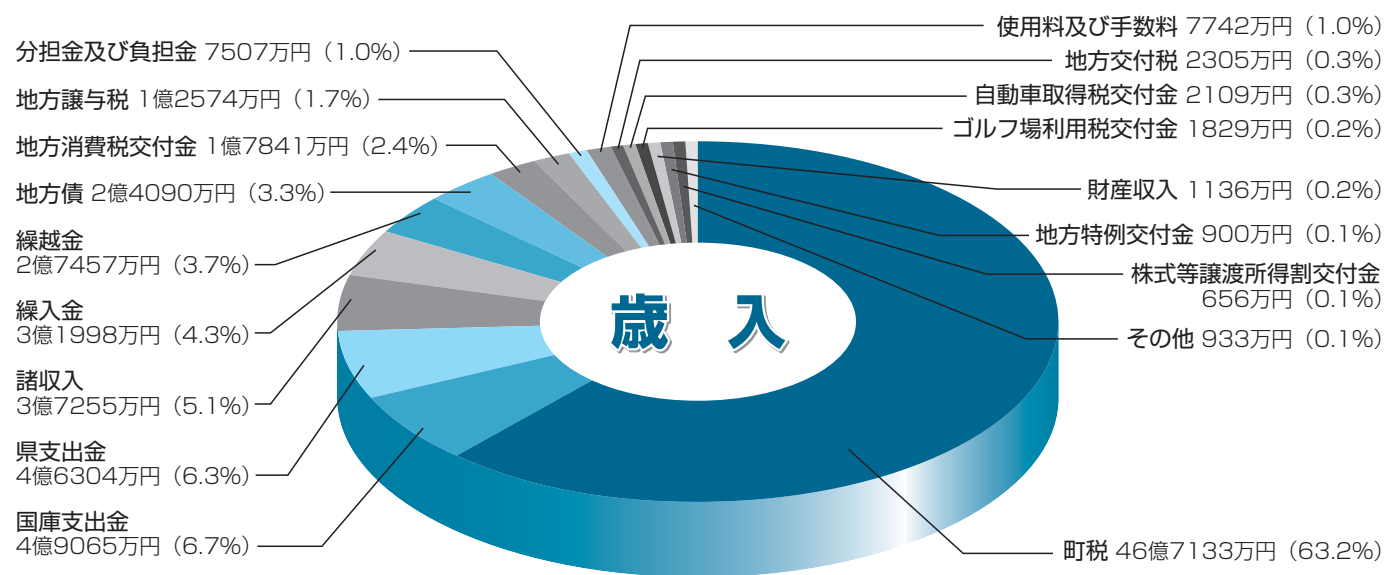
特別会計決算

▼国民健康保険税収入は3億803万円、前年度対比6・2%減、収納率は94・80%で前年度対比0・03ポイント低くなった。滞納繰越分は56・85%で前年度に比べ0・26ポイント高くなった。現年度分の収納率をほぼ前年度並みに確保できたのは評価できる。今後も国保財政安定化のため、滞納整理等の取り組みに一層の努力を望む。▼医療費抑制策として、特定健康診断や人間ドックなど受診率向上に向けた対策の検討を望む。▼下水道事業は接続人口、接続率ともに前年度より改善したが、事業会計は当年度純損失は1億8526万円となった。収益改善に向け、より一層の接続率向上を望む。▼水道事業は給水人口、給水戸数ともに前年度より増加した。今後も、より安定的な経営のため接続率の向上を望む。また、水道事業は循環型社会の進展等による水需要の変化から、経営を抜本的に見直す時期を迎えているので、検討願いたい。▼介護保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、新潟県営開拓パイロット事業聖籠町特別会計についても認定した。

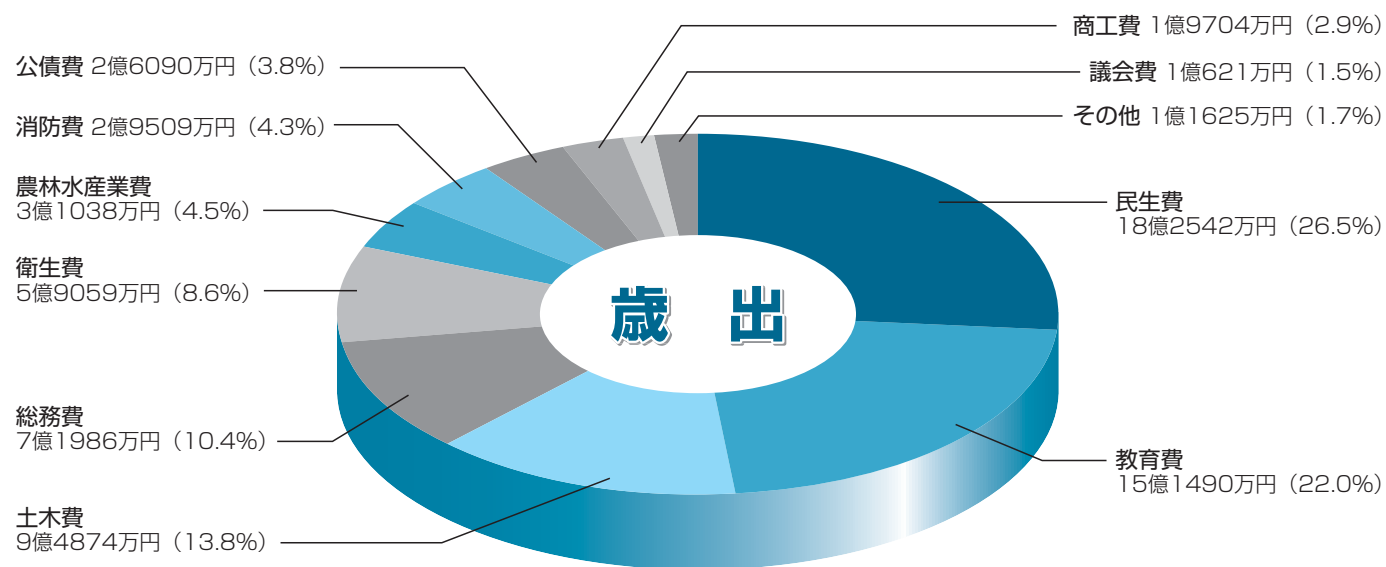
歳入増と事業再考で不交付団体の堅持を

平成25年度 一般会計決算

歳入 73億8834万円



歳出 68億8538万円



決算審査委員会での意見・要望

歳入

納税の公平性の順守

納税の公平性の観点から、また税収が削減する状況にあることから、町税等の未納対策において一層の創意工夫を求めます。

交付金事業の活用

国・県などの交付金事業等を注視し、活用の機会を逃すことのないよう、努められたい。

歳出

委託事業

町では事務事業の見直しを行っているが、特に委託事業については再度検討し、効率的かつ効果的に事業が図られるよう要望する。

交通事故防止

交通事故防止のため、町内危険箇所への信号機設置や道路構造改良などの検討を望む。



▲スクールゾーンの安全確保を

循環バス

循環バスを民間委託した効果を十分発揮して欲しい。また、この事業は福祉政策の一環であり、弱い立場の人の生活の一部であることに配慮した上での運行計画検討を望む。

町直営事業の見直し

ふれあい農園および交流館「杜」について、経営状態改善の検討を望む。

安全・安心な海水浴場

観光客が多い海水浴シーズンの安全対策のため、海水浴場に救命員を配置するよう検討を望む。

小学校の学力

小学生の学力向上のため、学習指導の一層の充実と改善を図るよう望む。

弁天潟ハスの再生

弁天潟風致公園のハスの環境調査結果を踏まえて、さまざまな手だてを講じハスが再生できるよう努められたい。

図書館

図書館には町民の生涯学習の場はもとより、近隣市町村との交流の場とするなど、町の活性化の拠点の一つとして広く町民から愛される施設となるよう望む。

文化会館 自主事業

自主事業の実施は、町民の豊かな心を育み、文化振興に寄与している。今後は各事業のチケットが完売できるよう、一層の創意工夫を期待する。

第1回臨時議会

平成26年第1回臨時議会が7月15日、1日間の会期で開催されました。

総額に歳入歳出それぞれ1068万円を追加し、予算の総額を69億8320万円と定める補正予算です。いずれも慎重審議し、原案は全会一致で可決しました。

主な歳出は、子育て世帯臨時特例給付金扶助費316万円、県消防大会出場経費199万円などです。

主な質疑

上位入賞市町村は

五十嵐利栄議員 小型ポンプ、自動車ポンプとも、上位入賞市町村はどこか。

小型ポンプ・自動車ポンプ順位

生活環境課長 順位は、

子ども教育課長 子育て世帯臨時特例給付金に該当する人は、平成26年1月分の児童手当を受給している世帯。その対象者は、当初予算で2100人を見込んで

二千百六十数人くらい

特例給付金に該当する人は

五十嵐利栄議員 子育て世帯臨時特例給付金が今回一時金が出るが、所得制限で上限が一部ある。町内で全体の児童数に対して給付される人が何人か。その条件はどういう状況で対象になるか。

所得制限で児童手当を受給できない人は、特例給付金に該当しないが、その正確な人数については把握していない。

読者の声



たかはし 高橋 さつき 五月さん (網代浜)

高齢者に優しい町

聖籠町は子育てに支援はすごく充実していると感じます。そして私も高齢化社会の現在医療や福祉が充実し、高齢者やその家族に優しい町になることを望んでいます。

正月を外泊させてもらい、家で家族と貴重な時間を過ごすことができました。父のうれしそうなお顔をみるのができたのは介護保険があったから実現したことです。

最後に私事ですが、聖籠テニスクラブに所属させてもらっています。テニスコート、そして多目的運動場と、天候の悪い冬期間でも年間を通して活動できる素晴らしい施設や環境に大変ありがたく感謝しております。これからもよろしくお祈りします。

私の父が心臓疾患で入院中、「今回が最後のお正月になるでしょう」と言われました。自分では動くこともできず、食事もとれなかった父は病室のベッドで「家に帰りたい」といつも言っていました。介護保険でベッドを借りることができ、最後のお

このように受け手が必要としている時に、すぐ対応してもらえ、適切な介護サービスを受けられることができたことは感謝に堪えません。疾患をもつ高齢者の家族にとっては、受けたい時に診てもらえる医療があるという安心感や、必要な時に受け

お祈りします。



一般質問 町政を問う

7 議員が質問

- 9月議会では、7議員から町政を問う一般質問がありました。
- 次ページからは、それぞれの一般質問について要約を掲載しています。
- 全文は会議録として、11月末に町ホームページに掲載される予定です。
- 一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたって、町長等に疑問点をたずねるものです。

宮沢 光子 議員

- 1 町民の声にどう応じているか
- 2 新図書館の運営は順調か
- 3 幼児教育の質の向上を

P13

高松 守雄 議員

- 1 「エネルギー戦略特区」の進展は
- 2 二重投票をなぜ防げなかった

P14

五十嵐 利栄 議員

- 1 選挙公約どう実現する
- 2 町からオリンピック選手を

P15

田中 智之 議員

- 1 人口2万人へのビジョンは
- 2 子どもの貧困の現状と対策は

P16

小川 益一郎 議員

- 1 渡辺町政6期目3人に1人反対
- 2 「夕彩の郷」不正返還請求の実態は本則に戻した結果は
- 3

P17

中村 恵美子 議員

- 1 どう考える町長批判票
- 2 給食申込書の中止を

P18

青木 順 議員

- 1 町の発展に力を入れよ
- 2 地域交流の中で介護予防を

P19

町民の声にどう応じているか

町長 適切な回答と対応をしている

問 町長の公約に「つねに町民とあゆむ開かれた町づくり」がある。町民と歩むためには、町民の声に真摯に向き合うことが大事である。

町長 さまざまな形で届く町民の声に対して、事務的に回答するものと政策的な判断を要するものがあるが、適切に対応している。寄せられた町民の声をまとめたものを、今後、広報などに掲載できるか検討したい。

職員 に対しては、町民目線に立ったサービスの向上を今後も指導する。

町長 町民が利用する公共施設の管理・運営に寄せられた声に対し、所管する社会教育課は対応策等をどう示しているか。

教育長 社会教育課では、所管する施設に意見箱を設置している。意見に対する回答を所定の場所に掲示している。町民に身近な施設運営に努めたい。

新図書館の運営は順調か

教育長 読書や学習の場として利用拡大

問 新図書館が開館して約3カ月が経過した。新図書館は、面積や開館、閉館時間等が旧図書館と大きく違い、従来の利用者にとって戸惑いも多い。町を代表する施設になるために、今後もさらに利用者の声を把握し、新図書館の運営に反映すべきと思う。対応をどう考えているのか。

教育長 新図書館は開館以来、読書や学習の場として多くの利用者が来館している。「利用者の声」の箱を館内の町情報ギャラリーに設置している。

意見などへの対応は館内の掲示板などで答えている。子ども読書推進計画については、平成27年度中に策定をする。

幼児教育の質の向上を

教育長 幼稚園教育を見直している

問 町の子どもの学力と生きる力の向上のために、幼児教育の見直しや質の向上をさらに議論すべきではないか。小中学生に対し、土曜学習に取り組む自治体が増えた。町はどう考えているか。

教育長 小学校との円滑な接続という視点から今年度は幼稚園教育の見直しを進めている。土曜学習を含めた教育活動については、慎重に検討する。



宮沢 光子 議員

問 新図書館が開館して約3カ月が経過した。新図書館は、面積や開館、閉館時間等が旧図書館と大きく違い、従来の利用者にとって戸惑いも多い。町を代表する施設になるために、今後もさらに利用者の声を把握し、新図書館の運営に反映すべきと思う。対応をどう考えているのか。



▲待望の集中できる学習室（新図書館）



高松 守雄議員

「エネルギー戦略特区」の進展は

町長 去年は不採用、新たに再提出

問 ①国の国家戦略特区諮問会議に、県と新潟市、上越市、聖籠町が共同で天然ガスの安定供給などを柱とする「エネルギー戦略特区」構想を提案している。

また、ロシアから天然ガスを輸入する県の日本海横断パイプライン構想について調査報告書の全容が明らかになったが、実現の可能性や県の政策を聞いているか。

②政府が地震などの災害対策を条件に、石油元売各社に製油所統廃合資金支援をして、国内製油所を再編して合理化と石油製品の安定供給につなげる狙いを打ち出している。ゴルフ場の本社、JX日鉱日石エネルギー(株)を訪問した結果は。

町長 ①特区選定に昨年申請したが、不採用だった。新たに内容を加え、国に対して再申請した。今後国における議論、ヒアリング等を受けた審査によるが、特区選定については大きな期待を寄せられている。

とした産業基盤形成に国への要請をはじめ、関係自治体に要請していく。②JX本社では早期の本来的エネルギー関連の整備、港湾機能を大きく発展させるために多様な形で新たな活用策を検討要請。前回より踏み込んだ前向きな考え方が示された。



▲東港に入港のLNGタンカー

二重投票をなぜ防げなかった

選挙管理委員長 確認不足で見逃した

問 ①4年前の町長選より、投票率は9・54ポイント低い68・20%と過去最低であったがこの結果と20歳代の投票率はどうかであったか。

②公職選挙法違反とされる別人に成り済ました二重投票について、選挙管理委員会はどう捉えているのか。また、今後の対策は。

選挙管理委員長 ①投票時間の延長は投票者の権利確保と利便性を図る。投票率の低下はさまざまな要因で特定は難しい年代別の20歳代の投票率はまだ集計していない。

②第8投票区で前代未聞の二重投票があった。有権者および関係者各位に迷惑をかけた。投票所の受付で確認不足があり見逃してしまった。投票事務従事者説明会で再徹底し再発防止に努める。

選挙公約どう実現する

町長 着実に実行していく

問 町長は選挙で公約した町づくりのキーワードである次の3点について、実現に向けての課題や問題点をどう捉えているか。

- ①教育と福祉の拡充
- ②新潟東港企業誘致による財源の確保
- ③職員の意識改革

また新規政策として、通常の保育料は、2人目半額、3人目無料の運用を5歳児まででなく、小学生までの子どもの数で判定する政策と、0歳から中学生まで、同じ医療機関に月2回以上かかっ

た場合、2回目以降全額助成する政策は、いつから実施する予定で、予算はどの程度必要か。

町長 選挙公約実現に向けて①教育委員会制度の改正や、幼保連携型の認定こども園制度の拡充などを含めて、町の教育環境の整備を構築していく。0歳〜2歳児の保育料の軽減も図っていく。

②一番大きな課題は東北電力(株)港火力1号、2号機の老朽化対策であり、さらには暫定ゴルフ場の工業化に向けての要請な

どを継続して行っていく。③新たな研修制度や、人事評価制度を含めて、職員の能力開発を図っていく。

また、新たな二つの公約については平成27年度から実施したい。予算はそれぞれ約800万円と320万円くらいとみている。



五十嵐 利栄議員

町からオリンピック選手を

町長 全町挙げての応援体制を



▲頑張れオリンピックを目指すアスリートたち

問 フェンシング競技で、当町の平野良樹選手が、大学チャンピオンとなり、リオのオリンピック強化選手となっている。

小林かなえ選手もサーブル個人で高校総体のチャンピオンとなり、東京オリンピックを目指している。

聖籠町からオリンピック選手を育てるために、フェンシングに限らず、一定の国際レベルに達した選手に遠征費用などを

サポートする(仮称)「聖籠町からオリンピック選手を育てる応援団の会」を設立できないか。賛同する個人や団体に呼び掛け広く運動を盛り上げたいがどうか。

町長 町を挙げて何らかの応援する組織は必要と考える。可能性が高くなれば、応援体制を考えたい。



田中 智之議員

人口2万人へのビジョンは

町長 将来の可能性としての話だ

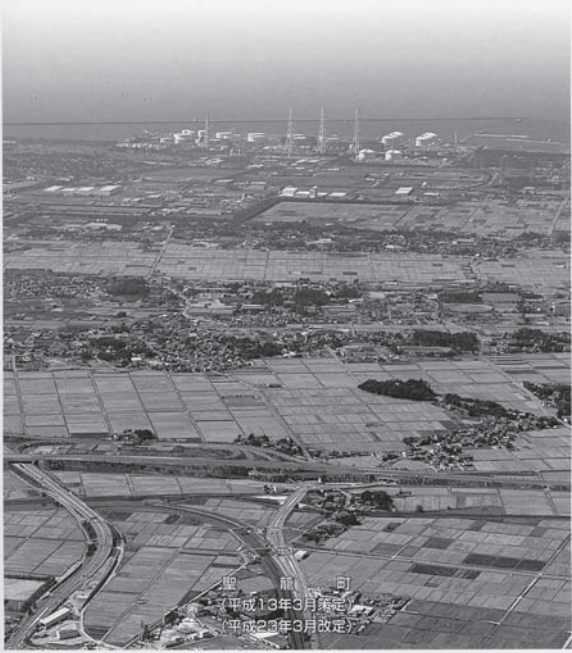
問 8月27日・28日の新潟日報に、「2万人への船出」というタイトルで町長6期目の課題と政策が掲載された。その中で町長は、本町の適正人口を町の面積や施設の収容規模などから2万人と見ており、その数字は達成可能と話している。

現在の人口減少社会の中で人口を増やすには、さまざまな分野で本町の魅力を向上させて、ブランド価値をより高めることでしか実現できない。ぜひ、この夢を実現してもらいたい。町長は2万人に向け、どのようなビジョンを持っているのか。

町長 将来の本町の適正人口規模は、位置状況や東港工業団地の企業立地と雇用機会の優位性。また町の行政面積や公共施設の整備状況などから、2万人規模程度が町づくりにとって一番いい形ではないかと、日報の取材に答えた。潜在的に将来その可能性は十分ある。

現状では第4次総合計画の計画期間の平成32年までに、目標の1万5千人は確実に達成できるのではないかと考えている。

第2次
聖籠町都市計画マスタープラン
The second Seiro city planning Master plan



▲人口2万人達成を

子どもの貧困の現状と対策は

教育長 まず現状把握が課題

問 「子どもの貧困」という聞き慣れない言葉が、最近メディアで目にしたり耳にしたりする機会が増えている。

この「子どもの貧困」の原因である世帯間の経済格差は、生活への悪影響はもちろん他の格差も伴う。その結果、人生の早い段階で希望を失わざるを得ない子どもたちが増えている。中でも最も問題視されるのが経済格差で子どもの学力や心の発達に大きな差が出るという現象だ。

本町の「子どもの貧困」の現状はどうか。課題は何か。貧困状態の子どもに対する支援策は。

教育長 町独自の貧困率は出していないが、本町の就学援助率は平成25年度が5・3%で年々減少している。平成23年度の県平均の18・4%と比較しても大幅に下回っている。本町の課題は、まず現状をきっちり把握することだ。

現在の対策や支援策は、3歳児からの幼児教育や子ども園での通常保育料の無償化。大学等の無利子の奨学金事業がある。さらに今年度は、医療福祉機関と教育機関が連携し、きめ細やかな支援を行い教育の機会均等を図っている。

貧困状況にある、なしにかかわらず、全ての子どもが健やかに育成されるよう努めている。

渡辺町政6期目3人に1人反対

町長 初心に返り誠心誠意

問 8月24日執行された今回の町長選挙は、町長が5043票、新人候補が2416票で票数はダブルスコアであった。

新人候補が立候補の起意表明したのは告示日の10日前であった。町内を回ることもなく、選挙運動らしい運動もなく、公明正大な選挙であった。

にもかかわらず、3人に1人の人は町長の大選や町長の政策に対して、反対を表明したことは非常に

意義あることであった。

町民の側からいえば、選挙があることは、有権者の権利を行使する最大の場である。選挙が行われたことは民主主義を守る意味から大きな意義があった。

①6期目最大の柱は何か。
②町づくり最大の柱は財源と思われるが町財政をどう維持する。
③今回の町長選挙は町長100に対し新人は1の

比重で戦ったように思われるが、公職選挙法に抵触する事例はなかったか。

町長 批判票については真摯に受け止め初心に返り誠心誠意、町づくりに努力したい。

①継続的・持続的な町づくりに長期的財源確保が必須である。
②企業誘致や東港企業の設備投資につながる施策を展開して、新たな財源確保につなげたい。
③町内回りをしているときに警察から控えるように注意を受けたので以後は中止した。

「汐彩の郷」不正返還請求の実態は

町長 10年分割返還了承

問 介護給付費を不正請求したとして、県の行政処分を受けた「汐彩の郷」を運営する「心友会」に対し町はどのような返還請求をしているか。

①返還額6037万円はいつ、どのような方法で町に返還される。
②利用者負担額の934万円は、いつ個人に返還される。

町長 ①返還方法は分割で毎年9月末日を返還日とする10回となり終了は平成35年9月末日。
②町に返還される9月末以後速やかに返還できるよう「汐彩の郷」と調整中で一括還付の予定。対象者は延194人、実人数164人。

本則に戻した結果は

選挙管理委員長 啓発活動に努めたい

問 ①投票時間を本則にした結果午後6時〜8時までの投票状況は。

選挙管理委員長 ①投票時間2時間延長により、有権者の権利保護と選挙の公平確保が図られ688人が投票した。
②二重投票は人的ミスであり再発防止を徹底する。



小川 益一郎議員



▲望まれる介護施設の充実



中村 恵美子議員

どう考える町長批判票

町長 初心に返り公約実現

問 ①町長は有権者約半分の得票どう生かすか。
町長への批判票をどう考えるか。
②今回の選挙で、二重投票があったが、今後の対策どう考えるか。
③保育料の適用を5歳児から、小学生の数で判定すること。子ども医療費の一部負担金を今では、3回目以降無料を2回目以降無料にすること。公約実現の見通しはいつ頃か。

町長 ①あなたが主役の人に優しい、笑顔の絶えない聖籠らしい町づくりを考えている。
初心に返り、公約実現に頑張りたい。
②今後の対策は、投票事務従事者説明会での再徹底

底、入場券の改善、氏名をフルネームで確認する。
③保育料の運用と医療費助成については、来年度の予算編成の中で組み入れ、議決されたら、平成27年度から実施したい。

給食申込書の中止を

教育長 文書について検討する

問 聖籠町が給食の申込書を出させるようになったのは、決算委員会での給食費の滞納が問題となり、行政側が考えた策である。給食申込書は中止すべきでないか。
今、子どもの貧困が深刻となっている。給食費を払いたくても払えない

町長 家庭もある。全ての子どもが笑顔で食べられるように、給食費の無償化が必要でないか。
6月県議会一般質問で、県制度として子どもの医療費の一部負担金をなくすことを求める質問が出た。県知事は、市町村から希望があれば対応する

町長 給食費の無償化については、給食費の保護者負担は学校給食法第11条第2項に「学校給食の運営に要する経費は、人件費や修繕費以外は保護者負担とする」と定められている。無償化はしない。

町長 子どもの医療費の無料は、医療費本来、病気やけがの程度や種類により格差がある。それを一律無料とすることは、公平・公正の観点から制度に合わないと考ええる。

教育長 給食費の文書等誤解があれば、検討させてもらいたい。



▲子どもたちの体力源 給食センター

町の発展に力を入れよ

町長 環境の整備が大切

問 わが町は、東港工業地帯などの多大な税収によって豊かな町民の暮らしやすい町である。独自の町づくりができているのもこのような背景があると多くの町民が認識している。
しかし、財政力指数も下落の一途であり、町の発展には欠かかせない企業誘致なども思うように進んでいないことも事実である。
また、誘致した企業にとっても、町に進出しよ

町長 その後の優遇措置は近隣の自治体に比べ非常に弱い。損して得とれとはいわないが、近隣の自治体は、それぐらいの取り組みをしている。
新たな企業誘致に関しては、雇用の創出、立地する企業等の仕事量の増加など、さまざまな経済効果が大きい期待できる。これらは、非常に喫緊の課題である。
東港振興室の努力も大切だが、企業だけでなく、観光、レジャーなど、町長のトップセールス力に

も期待しているがどうか。
町長 固定資産税の大部分が東港工業地帯に立地する企業の土地、工場等の償却資産によるものである。
近年の国内企業を取り巻く経営環境については、厳しいものがあり、新たな設備投資や、企業立地が進んでいないのは、本町においても例外ではない。

平成25年度から26年度にかけては、いろいろな施策が功を奏し、若干財政力指数も伸び、収入財源も増額であった。優遇措置もとりながら、環境を整備していくことが大切と考える。

地域交流の中で介護予防を

町長 永遠のテーマである

問 介護予防の充実を図り要介護状態になるのを防ぐことは今後の歳出の抑制につながるかと考える。
高齢者と子どもたちが気兼ねなく交流できる場をつくったらどうか。
コミュニケーションから子どもたちは多くを学び、高齢者は元気に楽しく暮らしてもらうことで介護予防につながるかと考えるがどうか。

町長 医療と介護の連携という事業も、予防事業の一環として位置付けられている。それぞれ視野に入れ今後事業展開を図りたい。



▲笑顔であいさつ 元気の源



青木 順議員



▲広報全国研修でクリニックを受ける

研修と視察で学ぶ

議会広報

7月10日・11日、第80回全国町村議会広報研修会に、広報委員4人が参加した。

研修会2日目は当議会広報106号について、広報コンサルタント芳野政明先生から、ページごとに細かく適切な指導をいただき、今後の広報づくりに大変参考となった。全体的には高評価をいただき、励みにもなった。

7月23日には県町村議会長会広報研修会に、広報委員全員が出席し、①読

まれる広報づくりのポイント、②文章・レイアウトのポイントなど広報づくりの指導をいただいた。

10月6日・7日、全国コンクールで最優秀賞の山形県庄内町と、4年連続入賞を果たした川西町を視察した。

広報づくりにかける両町の並々ならぬ熱意と、広報づくりのみならず、議会改革に取り組む姿勢が、見事な花を咲かせて



▲山形県庄内町の視察研修



▲山形県川西町の視察研修

あんなことや こんなことを 調査 委員会

いることを学んだ。

一方、広報づくりの原点は「読んでいただける広報」という点ではまさに考え方が一致していることも併せて確認できた。2日間の視察研修だった。



▲豊後高田市の教育を視察

あんなことや こんなことを 研修 報告

7月7日・8日、北海道滝川市と長沼市の農業振興・支援策を視察した。

滝川市の基盤整備事業は、約3035ヘクタール中、75%が基盤整備済みと基盤整備中である。残り25%も、年次計画で基盤整備が計画されている。基盤整備はハード事業で最も重要なものである。基盤整備率約30%の本町にとって、大変参考になった。

6次産業化の取り組みについては、地元農産物や特産品の販売、農業体験、レストランの設置など、多彩な活動を展開していた。本町の6次産業化の推進も、農商連携や事業の拡大が必要であると痛感した。

長沼市のJAグループが平成22年に開設した、食と農のふれあいファーム「くるるの杜」では、農業および調理加工の体験施設、農畜産物の直売所や農村レストランで北海道を味わうことができ、JAと地域がより密着した事業展開で、大変参考になった。

教育先進地に学ぶ

総務文教

7月24日・25日、「学びの21世紀塾」で全国の注目を集める大分県豊後高田市と、「国際社会に活躍する子ども教育」というテーマで教育改革を進める福岡県対田町の視察を行った。

「学びの21世紀塾」とは算数・数学・英語・パソコン等の寺子屋講座や体験学習を行う市営の塾で、毎週土曜日に市内8ヶ所の公共施設等で実施。5歳から中学生までが対象だが、その6割が

あたる約千人が参加している。講師は市民を含む約80人で、教諭約160人を含む200人がボランティア登録する官民一体の教育支援事業である。

国内外との交流・連携が進む対田町では、地域に根ざした国際人育成を目指しており、小・中学校では英語教育や国際交流の充実、ふるさと文化の理解を推進している。

全国の教育施策の良い点を積極的に取り入れることを、強く町に望む。

6次産業化取り組み学ぶ

厚生産業



▲農家レストランで地産地消

お知らせ

～ information ～

☆ 議会を傍聴に きませんか

今回の定例会は、

12月9日(火)開催の予定です。

議会では、どんなことが議論されているのか。どんな計画があり、どう進んでいるのか。あなたに身近なことかもしれないかもしれません。気軽に傍聴においでください。

また、本会議のようすを「エフエムしばた」のラジオ放送やインターネットでも放送しています。

都合で議場には来られない方も、ぜひ放送に耳を傾けていただき、ご意見、ご要望などをお気軽に私たち議員にお寄せいただければ、と思っております。



★表紙の写真★

「魅せろ女子力（聖中祭）」

9月6日に行われた「聖中祭」です。各軍対抗の棒倒しで、敵軍に突進する勇猛果敢で可憐な女子たちです。

発行責任者

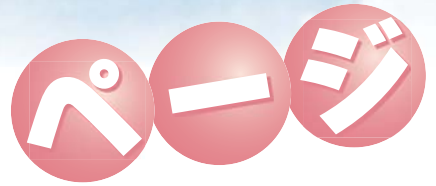
議長 須貝 龍夫

広報対策特別委員会

委員長	五十嵐利栄
副委員長	堀 常正
委員	宮沢 光子
	田村富美男
	田中 智之
	青木 順

みんな

の



聖籠町に嫁いで来た お嫁さん

家族に見守られ 楽しく過ごしています



つちだ みほ
土田 美保 さん
(山大夫)

Q どんなきっかけで彼と知り合いましたか？
知人の紹介で知り合いました。

Q 聖籠町に嫁いできてどんなイメージを持ちましたか？
果物畑がたくさん。
役場の雰囲気柔らかいなぁと感じました。

Q 町での生活はどうですか？（楽しい新婚生活のエピソードもあったらお聞かせください）
旦那さんにいろんな所に連れて行ってもらい、家族にも温かく見守られ、楽しく過ごさせてもらっています。

Q 町に望むことはありますか？
町の人たちが安心して明るく暮らせるように、分かりやすい行政サービスをどうぞよろしくお願いいたします。

今回は、胎内市出身で平成25年11月に嫁いで来た土田美保（旧姓 五十嵐）さんです。

皆さんよろしくお願ひします。

皆さんもみんなのページ「聖籠町に嫁いで来たお嫁さん」に出てみませんか。対象者は町外から嫁いで来たお嫁さんです。自薦・他薦は問いませんので、お気軽に役場議会事務局（TEL0254-27-1967）までご連絡ください。

無投票が予想された町長選挙は、告示10日前に一転、選挙戦となった。「無投票を回避できて良かった」という声と、「もったいない」という声が出馬できなかったのか、という声が交錯した。6期目をスタートした渡邊町長に限らず、これだけ長く首長をやれば、内外共に直接的にもの言葉を人はいなくなる。頭を下げた期間、町民一人一人に選挙期間、町民一人一人に、都議会や元議員の始まり、辞任した野々村元議員の政務活動費のたらい回し、北海道道議の飛行機で、暴言など、国民から見れば、まさに地に落ちた地方議員と映る。私たちがこれを人ごとせず、町民の負託に誠実に応える日頃の活動が、何よりも求められることを忘れてはならない。

議会広報対策特別委員会
委員長 五十嵐 利栄

編集後記